

感謝箱献金だより

ガリラヤのほitori 36号

「日本聖公会婦人会」から

全国の教会につながる皆さまへ

コロナ禍での不自由な生活を強いられる日々が続いています。いかがお過ごしでしょうか？
2020年の初めから始まった新型コロナウイルスの感染は、あっという間に国境を越えて世界中に広がり、多くの人々の命を奪い、普通の日常生活や仕事・学び・楽しみのお機会までも奪っています。

私たちの教会も例外ではありません。主日礼拝に参加することも、聖書の学びや交わりも制限され、人と人との接触はマスク越し、距離をとることなど求められています。

いったい、いつまで…

そんな今、日本聖公会婦人会から皆さまにお届けしたいメッセージがあります。

『感謝箱献金』

感謝と祈りのある毎日へのご招待です。



†「神さま、今日もみ恵みの中で生かされていることを感謝します。」

感謝の祈りと小さな献金を感謝箱に入れる・・・とてもシンプルなイエスさまの宣教のお手伝いです。この活動は1892年、数名の女性たちの祈りから始まり、戦争を経験し、大地震、大災害を乗り越え、休むことなく受け繋がれ、国内外の宣教を応援し続けてきました。そして来年130周年を迎えます。

〈*感謝箱献金の歴史は4.5ページをご覧ください〉。

今、私たちは、この祈りの活動がもっともっと、日本聖公会全体に広がっていくことを願っています。感謝箱献金は国内外の人々、特に女性や子どもたちの命を守る働きのために献げられます。◇詳しいことは『ガリラヤのほitori』やハンドブックまた、日本聖公会婦人会 ホームページをご覧ください。

1. 感謝箱を手に入れる
教会婦人会・感謝箱献金事務局へ

2. 目立つ場所に置く
誰でも参加

3. 祈りましょう
「神さま、今日もみ恵みの中で…」

4. 日々の感謝の献金を
小額でもOK
続けること

5. 集めた献金をお献げ先へ
イエスさまの宣教に参加



コア 新チャプレン から メッセージ

この度、感謝箱献金事務局(コア)のチャプレンとなりました。京都教区の出口崇です。
前任の木村直樹司祭からの引継ぎとして「寄り添いなさい」という一言をいただきました。
誰に、どの歩みに「寄り添うのか」、また寄り添っていただけているのかを考えつつ、皆様との関わりを大切にしていきたいと思えます。

サンタ: 「これから、食べ物がない人や、着る服がなくて困っている世界中のお友達
達の所へプレゼントを届けに行くんだよ。」

先生: 「ちょうど良かった！みんなからの献金も一緒に届けてくれませんか？」

サンタ: 「分かったよ！みんなに代わって届けてあげましょう！」



私が勤務している幼稚園では、クリスマス祝会に来たサンタさんが、みんなからの献金を、とある子どものための活動団体に持って行ってくれます。

お手伝いをして貯めたお金の一部を、強制的に日曜学校の礼拝で献金させられている我が家の息子から、真剣な顔で聞かれました。「ボクが出している献金は、誰に出してるの？」



父:「神様のご用のために…」

子:「どこに？」

父:「教会の色々な動きのために…」

子:「何に？」

父:「教区に…」

子:「は？」



サンタさんの言葉を大切に聞いていた息子の成長を喜ぶとともに、「父さんが今呑んでいるこのビールも…」と余計なことを考えてしまいます。

私たち一人一人のお献げしている献金が、どのように使われているのか。教会生活の中で関心を持たなければならないわけではありませんが、関心を持つことで、さらに大切に用いられていきます。

感謝箱献金では「顔の見える関係」を大切にし、お金を渡すだけでなく、支援先の方々と様々な交流、主にある交わりを続けておられます。その時々が必要に応じて大切に用いられています。

献金のお献げ先の報告を読んでいると、「どうしてこんな遠くのところに？」と、きっかけを想像します。誰かと誰かが「出会った」んだろうな。そこから輪が広がっていったのだろうと。

もっと支援を必要としているところはたくさんあります。身近にも、世の中いたるところで大変な出来事が起きています。常に誰かの助けを必要としています。

感謝箱献金のみならず、それぞれの教区の活動、またそれぞれの教会の一つ一つの活動が「なぜこんなことを？」と起源をたどれば「出会った」からだと思えます。

最初は個人的な繋がりから、周りの人たちを巻き込んで教会の働きとなっています。

その出会いの、繋がりの中にはいつもイエス様がいてくださいます。

私たちと常に関わり、寄り添ってくださる方を覚えながら、

皆様と共に歩んでいきたいと思えます。



コア 新スタッフの紹介

コアのスタッフは今年度から関西に拠りました

大阪教区 高槻聖マリヤ教会 中尾由紀子

今年度から、コアスタッフのメンバーになりました中尾由紀子と申します。

大阪教区高槻聖マリヤ教会に籍を置いています。教区婦人会の役員になり、感謝箱献金の働きを知りました。まだまだ学ぶ事が沢山ありますが、先輩方の教えを受けながら、頑張りたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



2021年6月22日
コアスタッフ任命式にて

京都教区 八木基督教会 森本愛子

このたび、感謝箱献金のスタッフを40年来のご縁がある井田涼子さんのお声かけで一緒に担うことになりました。どうかよろしくお願い致します。

コロナ禍が続いていますが、私はふと台所で聞いたラジオのメッセージが心に残っています。それは、コロナの病気にはワクチンが有効だが、疲弊した心身にも心のワクチンが必要で、「感謝の気持ちを忘れない」これが大事というお話でした。今、生かされていることの有りがたさ、おかげさまで！という気持ちを持つ、これは感謝箱献金のお祈りの中で大切にされてきたものです。この気持ちを忘れず、神様の見守りの中でどうぞお支えくださいますようによろしくお願い致します。

横浜教区 市川聖マリヤ教会 日暮直子

ひとり居残ってしまいました。オンライン会議が普通になった今だから、他のメンバー達とも頻りに連絡を取り合い、関西との距離が縮まった気がします。これからの時代お献げ先との距離も近くなり、お顔が見られるようになると良いと思います。

関西と関東の違いは発音にありました。今まで普通に「感謝箱献金」と呼んでいましたが、関西の方たちと話す時は「感謝箱[→]献金」になっています。130年前からこうだったのかしら・・・

感謝箱献金の祈り

神さま、

今日もみ恵みの中で生かされていることを感謝いたします。

イエスさまはいつも、悲しんでいる人、苦しんでいる人と共に歩まれました。私たちにもそのイエスさまの歩みに倣（なら）う心をお与えください。

私たちのこの献げものが、最も助けを必要としている人々のために用いられますように。

また、この人々との交わりを通して共に生きる者とならせてください。主イエス・キリストのみ名によって

アーメン

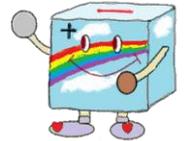
(2006年6月日本聖公会婦人会第21(定期)総会后第2回常議員会にて制定)

2021 年度 感謝箱献金 お献げ先 支援額

日本聖公会婦人会第 26(定期)総会后第 2 回会長会(2021 年 6 月 23.23 日)で決議されたお献げ先です。

1 年毎に議案が提出され支援が決定されます。 * 感謝箱献金ハンドブックもご覧ください *

お献げ先	支援内容	支援額	継続年数
エルサレム教区 「聖地ろうあ子どもの里 HLID」	ヨルダンにあるシリア・パレスチナ地域の「ろうあ」の子供たちの唯一の学校。国、民族、宗教を超えて受け入れているが、運営費は寄付で賄われており財政は厳しい。「シリア難民キャンプでの支援活動」一部支援。	20 万円	2012 開始 10 年間
リグリマ・ジャパン	バングラデシュの少数民族ガロの女性たちの地位向上、経済的自立、差別を無くし、弱者が安心して暮らせる社会を目指す活動を支援。	25 万円	2010 開始 12 年間
サイディア・フラハ	ケニアにある親との死別や極度の貧困のために養育を放棄された子どもたちの施設。子どもと女性の福祉のために活動する NGO 団体。運営費の一部補助。	25 万円	2014 開始 8 年間
アルディ・ナ・ウペポ	ウガンダのグルにある NGO/UYAP の運営する職業訓練施設への支援。経済的自立に至るのが困難な状況にある。	20 万円	1994 開始 24 年目
地域支援団体 釜石支援センター望 大震災被災者支援	日本聖公会釜石支援センターの活動終了後に設立。高齢化が進む中、復興住宅に移った人々と地域の人々の孤立化を防ぐ活動。東日本大震災から 10 年、今後も被災地を憶え祈り支援を続ける必要がある。	10 万円	2017 開始 5 年目
認定 NPO 生活困窮・ ホームレス自立支援 「ガンバの会」	千葉県市川市にあるホームレスの自立支援のため様々な活動を市内の教会が宗教色を出さずに運営している。困窮家庭の子どもの教育支援「夢塾」を行ってきた中から、各家庭の抱える問題を知り、相談に乗る支援が重要。	20 万円	2020 開始 2 年目
中部教区 「国際子ども学校 ELCC」	名古屋近郊で暮らすフィリピン人の子どもたちのための学校。言葉と社会性を身に着け安心の場を提供する。経済的に不安を抱える家族を支える活動支援のため。	20 万円	2003 開始 18 年間
中部教区「NPO 法人ルカ 子ども発達支援ルーム」 親子教室「すきっぷ」	尾張旭市を中心とした発達に気がかりのある子どもと母親・家族を支援する親子教室。保育環境と運営の補助費として。	10 万円	2021 開始
災害被災者・ 東日本大震災被災者 支援 (積立)	災害が発生した時、速やかに支援できるように準備を整える必要がある。広く災害被災者支援を行う資金として、積み立てる。	30 万円	2019 年か ら 3 年間



世界中で大流行中のコロナウィルス。ワクチン接種が加速。
 貧しい国々では接種も医療も受けられない人々が置き去りの現実も。

リグリマ・ジャパン

「リグリマ通信第27号」

コロナ禍の中、現地のリグリマのメンバーが6/18にZoom会議。4グループ19名のメンバー（教師、ソーシャルワーカー、農業、牧師等）が集合（本人や家族が感染した方も）。日本からも参加。公的な支援が無い中で、それぞれに感染対策をしながら、日常の暮らしを守る努力をしていることが報告され、お互いに励まされた。以前、裁縫トレーニングに参加したシップラさんは農業しながら、グラミン銀行の班長を引き受け、昨年仕立ての専門店を開いた。
 ◇今秋に、日本とバングラデシュのオンライン報告会開催予定。

アルディ・ナ・ウペポ

✉吉田愛一郎さんからのお便り
 母が召されて16か月も経ちますが、未だに整理がつかず、ことに母が着ていた衣類などが捨てがたく…苦慮していたところ、偶然リメイクファッションのアイディアが天より降りてきました。アフリカンにリメイクしてもらって生まれ変わらせよう！アフリカの「大地と風」母なる大地、風は神の働き。吉田千鶴さんのイメージと重なります。

ガンバの会

10/20の横浜教区婦人会大会がオンラインで開催。ガンバの会の活動をされている鹿島美紀子さんがお話ししてくださる予定。

サイディア・フラハ

「ビヨンゴ通信」6/30, 7/15
 ケニヤでもワクチン接種が開始。輸入量が少なく受けられる人が限定的な上に、VIP優先やワイロも。

この学校で帰宅途中の女儿が誘拐されレイプに遭う事件が発生。彼女はとなり町で保護された。荒川氏は「特別ページ」で事件の様子や彼女への対処、学校の今後の対応について報告がされていた。

女性や女儿の暴行やレイプ等は、最も弱い立場の人に向けられる暴力。貧困や女性の人権を認めない社会でたやすく起きる。子どもたちが教育を受けられる機会を保障することは大切。

聖地ろうあ子どもの里

通信 No.67 10/1

ヨルダンのコロナウィルス新規感染者数は徐々に落ち着きを見せ、夜間外出禁止令は撤廃。学校は対面授業もできるようになった。10/1は40年間、施設長を務めたBr.Andrwの逝去1年を迎えた。7月には今後の学校運営などについて、支援するグループ（ドイツ、オランダ、イギリス、スイス、日本）の代表者がZoom会議を行った。10月にドイツ代表が学校訪問を計画。この地域の情勢は今後も厳しい。

国際子ども学校

クムスタ・カ・第80, 81号
 新型コロナウイルス感染者急増を考慮し2学期のスタートを遅らせることになった。2学期は子どもたちにとって楽しい行事が多い時期。感染対策をしながら、豊かに過ごせる場を作っていきたい。保護者の置かれている立場も厳しい。緊急事態宣言の発令のため日本で暮らす外国籍住民も、愛する人、生活の糧を失い、さらに日本での在留資格を失うような状態に置かれている。子どもたちはそのような状況下で日々を送っている。

釜石支援センター 望

望（のぞみ）ニュース8月号

岩手県独自の緊急事態宣言が8/12が出され、お盆休みと相まって予定されていた各地域でのプログラムがすべて中止。

今秋にはコロナが落ち着いて、皆さまの笑顔が集まりますように。

聖ルカセンター子ども支援 すきっぷ

「うちの子は発達障がい?」「療育に通った方がいいの?」「様子を見るように言われたけど、なにかしなくていいの?」不安を抱えた親子の教室。

毎週1回（火・水）開催



プロフィール

出身：奈良県生駒市 出身教会：奈良基督教会

経歴：鉄道会社に10年ほど勤めておりましたが、聖書を学びたいという思いから会社を辞めて、同志社大学神学部に入りました。大学院の修士を終えるまでの過程の中で牧師を目指す召しを受け、昨年の4月にウィリアムス神学館に入学しました。

私は恥ずかしながら、原稿のご依頼をいただくまで感謝箱献金のお働きが実際にどのようなものかをはっきりと知らずにいました。それでも私の母教会である奈良基督教会にも、あの空と虹が特徴的な感謝箱献金がさりげなく置いてあったことを今でも記憶しています。感謝箱献金のハンドブックを拝読していましたら、そこで「感謝箱献金でつながっています」という言葉に目が留まり、心に響くものがありました。ところで、私はこれまで、自分に傷つくのを恐れて、人々との交わりをできるだけ避け、自分の現状だけにフォーカスを当てて来たように思います。そのような私が、今の神学校生活の中で、大きな賜物が与えられたと感じるのは、同じ神学校の仲間との出会いです。もちろん、お互い年齢も生まれも育ちも違う者同士ですので、生活を共にしていますとムツとすることもありますし、衝突も起こります。しかし神学校での交わりの中で、私だけでなく、そのようにいつも生活を共にしている仲間も同じように、さまざまな葛藤や悩みを抱えていることを知りました。「自分はなぜ牧師の道を目指そうとしているのか」自分だけでなく、他の仲間も同じような苦しみ、悲しみを経験している。またそれだけでなく、目に見えないところで、いつも誰かの祈りの内に支えられている。いつも誰かとつながっているのだ。私自身の中で、この「つながっている」という実感を持たたとき、少し気持ちが安らぐのを感じ、それが今でも私の生きる力と勇気になっています。「誰かとつながっている」という実感は、生きていくうえでとても大切なものなのだと思います。イエス様は、ガリラヤで病気の人々、弱く貧しい人々に向けて宣教されました。それは単に身体的な癒しのみならず、「いつもその人とつながりよう」とされるお働きだったのではないのでしょうか。イエス様とつながっているという実感は、弱く貧しい人々にとって、本当の癒しとなり、生きる勇気と希望に繋がっていったのだと思います。

「感謝箱献金でつながっています」。感謝箱献金は、まさにイエス様と人々をつなげる大切なお働きなのだと感じます。このお働きの中から、私もこれからの自分の生き方・ありようを模索していきたい、そして、そのお働きに少しでも参加させていただきたいと思います。

編集後記

全国の婦人会員の皆さま、全国の教会の皆さまへ。「ガリラヤのほり第36号」をお届けできることを嬉しく思います。今回の主役は「感謝箱」です。この箱を用いた感謝箱献金の活動は来年、130周年を迎えます。婦人会の活動として続けてきたこの活動を、この機会にもっと多くの方々に知って欲しいと願っています。ぜひ、4,5ページを開いてみてください。そして感染防止をしながら、誰かと話してみてください。「日ごとの感謝の祈りと献金でイエスさまの宣教のお手伝いを！」ぜひ、一緒に。

新運営委員長 井田涼子



日本聖公会婦人会感謝箱献金事務局

変わりました

〒520-2331 滋賀県野洲市小篠原 847-6
井田涼子方

TEL/FAX 077-599-3728 (井田宅)

E-mail kansyabako@gmail.com